

令和5年度函館地区の研究活動

研修部長 函館市立駒場小学校

校長 深澤 昌明

1. はじめに

函館市小学校長会は、函館市内の公立小学校・併置校・義務教育学校に所属する39名の会員で組織されている。主な活動として、函館市内の小・中学校長会合同による教育経営研修会を行い、研修を推進しながら地域の教育力の維持向上に向け研鑽に努めている。今年度は函館市小学校長会が主管となり執り行った。また、定例の研修会では本研究会の課題に沿った情報交流会を研修会後に行うなど会員間の交流も行っている。道小及び全連小大会への参加も中心となつて進めるなど、会員の資質向上に向けた研修を行ってきた。



◇函館市小・中学校長会教育経営研修会◇

2. 研究計画

(1) 研究の方針

- ①教育の今日的課題とその解決に向けた諸施策等の動向を見定め、校長としての資質の向上を図るための研修活動を推進する。
- ②全連小及び道小の研究の方向性を踏まえ、各学校の学校経営の充実に資する研究を推進するとともに、研究協議会への積極的な参加を図り、その成果を域内教育の深化・充実に生かすように努める。

(2) 研究主題

- ①「創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と校長の在り方」
～未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンを策定していくための校長の在り方
- ②「GIGAスクール構想を踏まえた端末やICT活用の組織的対応を目指した学校経営の充実に向けて」～3年目を迎えたGIGAスクール構想の成果と課題

(3) 研究主題の趣旨

函館市では平成30年3月に「函館市教育振興基本計画」を策定しており、函館市が目指す人間像として、「自立」「共生」「創造」が理念として掲げられ、6つの基本目標が示されている。函館市小学校長会は、こうした理念に基づき、函館の教育が目指す人間像の具現化を目指し、会員の連携協力により今日的な教育課題の解決に向けて研究活動を続けてきた。

本研究においては、函館市の重点的取組事項や各学校課題を踏まえた学校経営ビジョン

を策定するための校長が果たすべき役割と指導性を明らかにしていった。学校経営の更なる改善を図るとともに、教職員の意識改革を進め、地域とともにある学校を実現するために校長のとるべきリーダーシップについて明らかにしていった。

また、「GIGA スクール構想」については、「使う」段階から「日常の教具」へと考え方を変えてきている。機械の更新も視野に入れ、一人一台端末がこれからの学習活動に不可欠であるものとしていくための活用法についての研修も行っている。小・中学校間、小学校間だけではなく、学級間での差異の無い利用、さらには我々の働き方改革への活用も含め今後も引き続き研修を深める必要があると考えられる。

3. 研究活動の概要

(1) 教育経営研修会の企画・開催

① 学校経営の充実のための教育講演会

- 期日 令和5年10月5日(木)
- 講師 北海道教育庁渡島教育局長 山下 幹雄 様
- 講話 「教育行政の諸課題等について」

(2) 小学校長会研究大会への参加

① 第66回北海道小学校長会教育研究渡島・北斗大会への参加

- 期日 令和5年9月8日(金)・9日(土)
- 参加 第1分科会 趣旨説明 函館市立八幡小学校 寺本 公彦 校長
同上 研究発表 函館市立高丘小学校 若林 慎也 校長
他、全28名が参加

② 第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会(令和5年10月19・20日開催)

- 4分科会に4名参加

(3) 当面する教育課題に関する取組の企画・実践、情報発信

- ① 「学校経営における ICT 活用」の現状や課題、研究・研修等の体制構築に係る取組
- ② 「学校経営ビジョンの策定と推進」に向けた校長としての構想や学校・地域の実情を踏まえた取組について調査・交流

※ ①については、事前にアンケートを行った。内容としては、自校でのクロームブックの利用状況(持ち帰り等も含む)、業務改善との関わり等について情報を集めた。

※ 結果をもとに8つのグループに分かれ協議・情報交流を行った。

※ 各校での取組を共有することで、自校への取組の視点を明確にすることができた。

4. おわりに

本年度は、「未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンを策定していくための校長の在り方」に係る校長の役割や指導性に焦点を当てて研究を進めた。また、「GIGA スクール構想」を踏まえ ICT の日常的な活用の推進とともに教職員の働き方改革について研修を進めてきた。さらには、こうした成果の一部を道小渡島・北斗大会への参加などを通して交流し、研究内容を深めることができた。函館市小学校長会としては、これからの学校経営の一層の改善に取り組むことができた。